

科目名	メディアコンテンツ特論		英文表記					22年3月19日	
科目コード	6305								
教員名	西村篤						作成		
技術職員名	なし								
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間			
メディア情報工学科	5年	選	学修	2単位	講義	前期			
目標及び評価方法	目標項目			評価方法及びその割合					
	メディアコンテンツの表現内容と技法は、それを取り巻く政治的・社会的状況、また受け入れる側のライフスタイルや価値観によって大きく影響を受ける。本講義では地域社会におけるメディアコンテンツの果たす役割について事例を通じて学ぶと同時に、参加者自身が関連するテーマを選択して発表と討論を行うゼミナール形式で理解を深める。			(1) 各單元ごとに課すレポートの内容 (40%) (2) 発表時に作成するレジュメの内容 (20%) (3) 期間中の学習についてのレポート (40%) により評価する。					
高専目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	機械システム工学	情報通信システム工学	メディア情報工学	生物資源工学
	○	○	○	○	JABEEプログラム教育目標			A-3	
授業概要、方針、履修上の注意	【授業概要】メディアコンテンツが、特定の媒体に特化したデータではなく、社会の中で果たし得る機能を持った意味の世界であることを身を持って体験しようとする。【授業方針】そのため、この授業では担当教員による学説や事例の紹介とともに、受講生自身が主体的に自分の考えや感性を形成していきけるように、ゼミナール、ワークショップなど参加型の授業形式を導入する。ゼミ形式の討論では、担当学生によるプレゼンテーションをもとに、出席者全員が討論を行う形式を採る。【履修上の注意】この授業では問題を個人的な問題と結び付け、自ら感じたり考えたりすることが重要であるので、主体的な取り組みを心掛けてもらいたい。								
教科書・教材	事前に購入しなければならない教科書はない。教材としてプリントを適宜配布する。								
<b>授 業 計 画</b>									
回数	授 業 項 目	時間	授 業 内 容				予 習 項 目		
1	コンテンツ制作と科学技術	2	コンテンツ制作技術の発達について講義形式で学						
2	コンテンツ制作と社会	2	プロパガンダ、研究方法など多様なコンテンツ応用事例について学ぶ						
3	コンテンツ制作と環境	2	メディア表現と環境問題の関係について、サウンドスケープ思想や環境映像作品などを通じて学ぶ。						
4	事例研究(1)	2	ドキュメンタリー作品の研究						
5	ゼミ形式討論(1)	2	受講生がテーマを選択して話題提供し、参加者全員で討論を行う。						
6	ゼミ形式討論(2)	2							
7	ゼミ形式討論(3)	2							
8	ゼミ形式討論(4)	2							
9	事例研究(2)	2	ドキュメンタリー作品の研究						
10	ゼミ形式討論(5)	2	受講生がテーマを選択して話題提供し、参加者全員で討論を行う。						
11	ゼミ形式討論(6)	2							
12	ゼミ形式討論(7)	2							
13	ゼミ形式討論(8)	2							
14	事例研究(3)	2	ドキュメンタリー作品の研究						
15	総括	2	授業全体のまとめを行う。						
学習時間合計		30	実時間				25		
<b>学修単位における自学自習時間の保証 (レポート頻度など)</b> 各單元ごとにレポート課題を課す。また発表準備自学自習についてまとめたジャーナルをまとめ、期末レポートとして提出することを課す。									

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(50分=1、100分=2)